



MORESCO

第57期 報告書

平成26年3月1日～平成27年2月28日

Interview

社長インタビュー

さらなる成長を目指して、
新製品開発と新しいチームづくり

株式会社 MORESCO

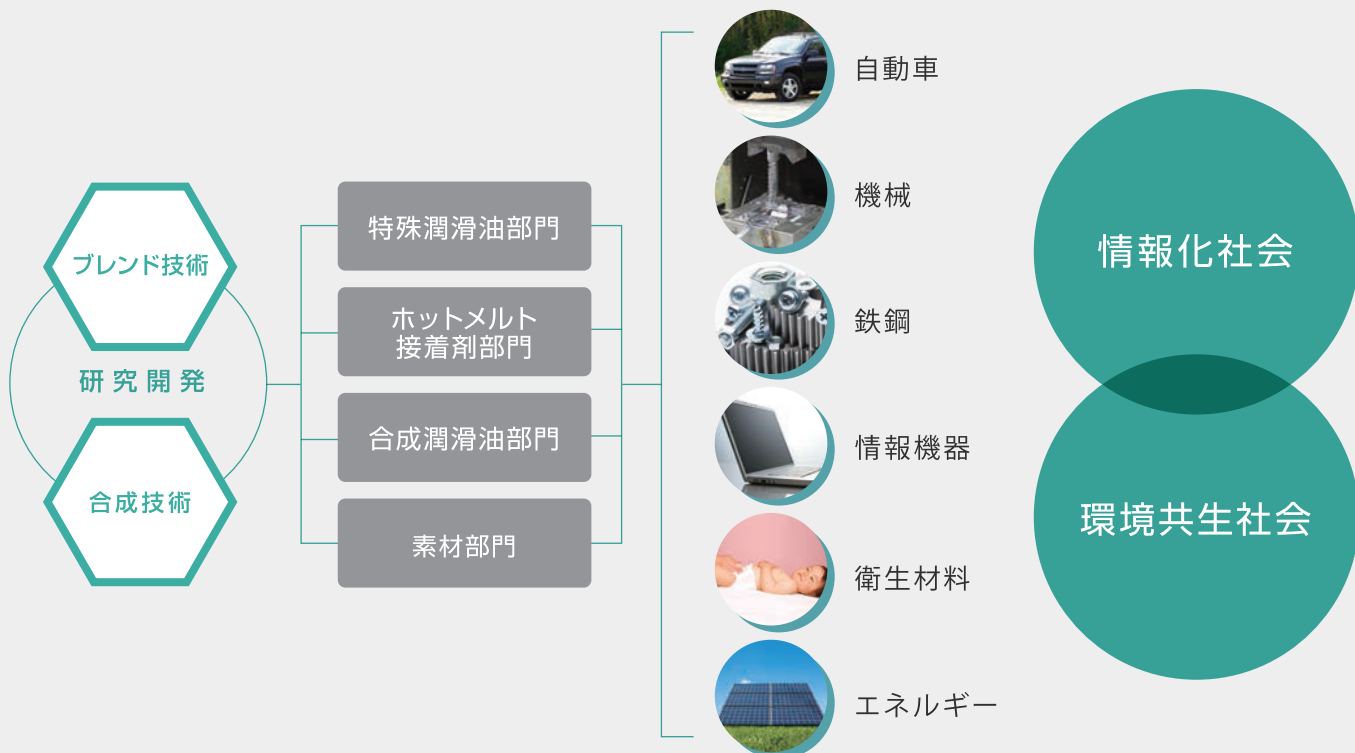


水と油と高分子のスペシャリストとして社会の発展に貢献する

小さくとも世界に きらりと光を放つ企業を目指して

経営理念

- 1 私たちは、「ユーザーのための研究開発」をモットーに、境界領域におけるニーズに応えることによって、いつの時代にも社会に貢献できる企業を目指しています。
- 2 私たちは境界領域のスペシャリストとして、新しい分野へも展開をはかり、新たな機能とサービスを提供していきます。
- 3 私たちは、人間性を尊重する環境づくりと、自由な発想によって、新しい価値を創造することに喜びをわかち合える企業を目指しています。



社長インタビュー | To Our Shareholders

さらなる成長を目指して、 新製品開発と新しいチームづくり

グローバルな事業活動が進展し、 成長の手応えを実感

2014年度は、売上高で前期比13.1%増、営業利益については23.8%増という増収増益を達成することができました。円安の追い風にも恵まれながら、私たちMORESCOが積極的に取り組んでいるグローバル展開が、各地域で順調に進展している成果だと考えています。

今期の成長に大きく貢献した製品のひとつが、日華化学(株)から事業を譲り受けた「熱間鍛造潤滑剤」です。日本国内のお客様に加えて、アメリカやタイをはじめ海外にも大きな需要があり、スムーズに展開が進んでいます。

もうひとつ、2013年に本格稼働したインドネシアの子会社において、子ども用紙おむつ向けの「ホットメルト接着剤」の生産が着実に増加しています。中国・東南アジアにおけるホットメルト接着剤の需要は、今後さらに拡大基調が続いていくものと見込まれます。2015年5月からは、中国・天津市にて新工場を稼働させ、さらなる成長の牽引力としていきます。

MORESCOの主力製品のひとつである「ハードディスク表面潤滑剤」においては、企業のビッグデータ活用などに



代表取締役社長 赤田 民生

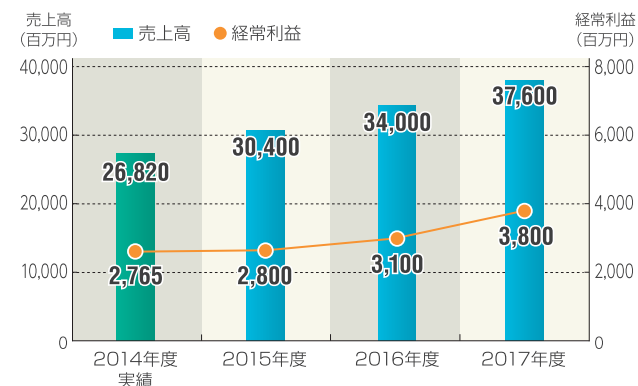
伴い「ニアライン・ストレージ」と言われるような新しいデータ記憶装置のニーズが高まっており、そこへ向けた新製品の販売拡大が順調に進んでいます。ハードディスク市場では、お客様から要求される品質や信頼性のレベルもさらに高まっています。そのニーズに応え、高付加価値製品を提供してきたことが、収益性の向上につながっていると考えています。さらに、2014年に立ち上げた金属加工油事業部が、期待を上回るスピードで成長を見せています。当初は、初年度の収益貢献は難しいだろうという見方をしており、マイナス計上する計画を立てていたのですが、わずか1年でほぼペイラインに乗せることができました。金属加工油は、世界的に非常に大きな需要があり、MORESCOとしてはまだまだ未開拓の市場です。今後の販売拡大や新製品開発に向けて、この1年間で確かな足がかりができたと感じています。(次頁へつづく)

さらなる成長の牽引力

新製品開発と、新素材への挑戦、MORESCOらしいものづくりを

私たちは、MORESCOのさらなる成長を目指すべく、2015年度から2017年度の3年間を対象とした第7次中期経営計画を策定いたしました。計画の鍵のひとつとなるのが「新製品開発」です。MORESCOは研究開発型の会社であり、常に新しいものを生み出すことで事業を発展させてきました。現在、各事業部長のリーダーシップのもとに、グローバル展開が順調に進展しています。こうした流れを活かしながら、現在取り組んでいる事業の延長で、お客様にさらに喜んでいただける製品とサービス、

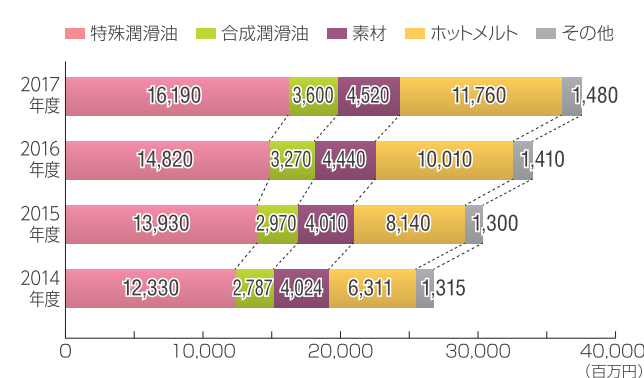
■売上高と経常利益の推移(連結)



他社にはないMORESCOらしい新製品を生み出していきたいと考えています。

また、素材部門の主力製品である「流動パラフィン」が、ある程度市場の飽和を迎えつつある中、次の「新素材」の開発を積極的に進めていきます。MORESCOは「水と油と高分子のスペシャリスト」というキャッチフレーズを掲げていますが、今後3年間は、「高分子」に徹底的に取り組む所存です。きっかけは、自動車内装用の「反応型ホットメルト接着剤」の開発でした。この製品は、独自の合成や変性の技術を駆使して、材料そのものから加工してつくりあげています。こうした取り組みをさらに強化し高分子材料の新しい可能性を見出したいと考えています。

■部門別売上高の推移(連結)



新製品開発と3つの重点分野

成長を牽引する3つの重点分野

新製品の開発にあたり、私たちは「環境関連分野」「情報関連分野」「エネルギーデバイス分野」の3つを重点分野に決めました。

環境関連分野:自動車関連部品をはじめ、お客様の製造現場において生産性向上や省エネルギー化につながる製品の開発を進めています。たとえば、2頁でもご紹介した「熱間鍛造潤滑剤」は、従来グラファイトが使用されていたことから「黒モノ」と呼ばれ、現場を汚しやすい製品でした。これに対して私たちは「白モノ」と言われる白色系の潤滑剤に注力しています。作業性の改善や工場美化につながる製品であり、性能の向上を進めることで大きな需要が期待できます。また、少量でも離型機能を発揮できる「ダイカスト用離型剤」の開発によって使用量を減らしたり、低温で溶解・塗工できる「ホットメルト接着剤」によって電力消費量を減らすなど、さまざまな面から環境改善に貢献できる製品を市場展開しています。

情報関連分野:ハードディスクに使用される表面潤滑剤によって、これまでビジネスを進展させてきた分野です。世界的に見てもメーカーの数自体が少なく、開発の現場

からお客様に密着してものづくりに取り組んできました。次の機種に求められる機能や問題点をディスカッションし、お客様が求めるものをしっかりと共有しながら開発を進めていくという、ひとつのビジネスモデルを築くことができたと考えています。その一方で、ハードディスクの市場が大きくなるのに伴い、いつどのようなかたちで代替品などの脅威が現れるかわかりません。見えざる脅威に備えるため、業界の動向を常に観察すると共に、自ら先取りして、新しい材料や次世代のハードディスクの潤滑剤についての研究を進めています。

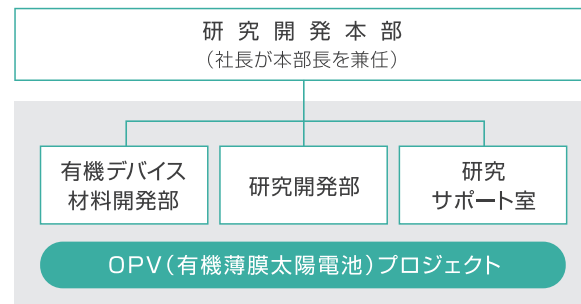
エネルギーデバイス分野:まだ規模は小さいながらも、有機ELデバイスに向けた「高性能封止材」が堅調に推移し、新たなビジネスとして育ちはじめました。日本国内だけでなく、台湾、韓国、中国や北米など、海外のお客様に対しても積極的にアプローチを行い、徐々に受注が生まれています。有機ELがどのような市場規模に育つかを、今後3年間で見極めていきたいと考えています。また、封止材の技術を他の用途にも展開するべく、有機薄膜太陽電池などに向けた「高バリア性封止材料」の開発を加速させます。(次頁へつづく)

成長を叶える組織へ

経営企画部を新設し、組織としてのつながりを強化

新たな中期経営計画の達成、そして、MORESCOのさらなる発展を成し遂げるために、新しい組織体制をスタートさせました。まずひとつは、各事業部がそれぞれ独自にグローバルにビジネスを進展させていく中で、MORESCOという組織全体の結束をより強める必要があると考え、「経営企画部」を新設しました。経営企画部と一言で申し上げても、経営方針の策定だけでなく、各事業部のマネジメントや世界各地に点在している子会社の統制、社内外へ向けたメッセージの発信など、コーポレートガバナンスから広報的な役割まで、幅広い仕事を担って

■ 研究開発の新体制



もらいます。管理的・官僚的な部門ではなく、トップマネジメントと各現場との橋渡し役として、MORESCOらしい経営企画部にしていきたいと考えています。

さらに、ここ数年で「クラブ活動」が活性化してきました。同じ趣味を持つ社員同士が中心となって、新しいクラブが次々に発足しています。すでに部員20名を超えるランニング部や卓球部をはじめ、フットサルやバスケットボール、ビリヤードなど、社員たちが積極的に活動に参加し、賑わいを見せています。部署や業務の枠を越えて、新たなメンバーとふれ合い、同じ目標に向かって協調していく中で、人と人とのネットワークが強化され、遊びの中から新しい反応が生まれていけばと期待しています。

研究開発本部長を兼任し、トップと現場との連携を密に

もうひとつは、私が本部長を兼任する「研究開発本部」の設立です。研究開発本部は、「有機デバイス材料開発部」「研究開発部」「研究サポート室」という3つのチームと「OPV (Organic Photo Voltaics / 有機薄膜太陽電池) プロジェクト」を管轄します。

新体制と強いチームづくり

2015年3月から運営をスタートさせたばかりですが、より緊密に現場とのコミュニケーションをとれる機会を設けていきます。こうした新体制のもとで、経営トップとしての判断と、私自身が長年研究開発の現場に身を置いてきた経験を活かしながら、未来につながる指針を示し、新製品や新材料の開発に向けて大きな推進力を生み出していきたいと考えています。

MORESCOブランドと技術を守る法務・知財部

グローバル市場におけるビジネス拡大を見据えて、MORESCOというブランドや商標権、独自技術などをを守るために、「法務・知財部」も新設しました。経営企画部がいわゆる“攻め”のための強化だとする、法務・知財部は“守り”の強化だと言えます。

■ グローバルビジネスを見据えた経営企画部と法務・知財部の新設

経営企画部

- 経営方針の策定
- 各事業部のマネジメント
- 世界各地の子会社の統制
- 社内外へ向けたメッセージの発信

法務・知財部

- ブランド、商標権、独自技術を守る
- 各国の法令、契約・商取引におけるチェック機能の設定
- コンプライアンスの徹底

国や地域によって異なる法令や契約・商取引におけるルールなど、法的な部分にもきちんとしたチェック機能を設け、コンプライアンスを徹底させ、企業としての社会的責任を果たしていきたいと考えています。このようにMORESCOでは新たな3年間に向けて、さまざまな面から成長につながる取り組みを始めています。株主の皆様におかれましては、今後とも末永く私たちの事業をご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



部活動を通じた社内コミュニケーション ～部活動紹介～

当社では、いくつかのクラブ活動が行われており、部署の垣根を越えたコミュニケーションの活性化に役立っています。今回は、その中でも活動が盛んな2つの部を紹介いたします。

ランニング部



好成績をおさめました

つねに練習を欠かしません!



2013年発足と若い部ながら、研究開発部門、管理部門、千葉工場等さまざまな部署で働く社員が所属するクラブです。2014年度はいくつかの駅伝大会に参加し大会上位の成績をおさめました。2015年度は駅伝大会への参加だけでなく合宿を企画しており、さらなるレベルアップと社内コミュニケーションの向上を目指しております。

卓球部



神戸市リーグめざせ2部昇格!



本社 VS 赤穂練習試合

発足時期が不明なほど古くから活動を続けているクラブです。本社・研究センターと赤穂工場の社員が所属しており、主に赤穂市、神戸市の大会に出場しています。昼休みや終業後の時間を利用して地道に練習を重ね、昨年は念願の神戸市リーグ3部昇格を果たしました。次は2部昇格を目指して頑張ります!

10 Oct. MORESCO USA Inc. メキシコ事務所を開設

米国子会社であるMORESCO USA Inc.のメキシコ事務所を開設しました。日系自動車メーカーの進出が続くメキシコで、ダイカスト用離型剤、熱間鍛造油、高温用合成潤滑油を中心とした需要を取り込み、日系企業のみならず米系企業に対しても市場開拓を進めてまいります。



10 Oct. 本社・研究センターにて新研究棟の建設を開始

2014年10月に、本社・研究センターにて新研究棟の建設工事が始まりました。竣工は2015年10月15日の予定です。創造性と機能性を融合した新研究棟で、新製品や新規事業の創出につながる研究開発を推進してまいります。



2 Feb. 福祉車両を贈呈

昨年に引き続き、神戸、赤穂、市原の3市に福祉車両「MORESCO号」を寄贈しました。まだまだ少ない台数ではありますが、福祉施設や保健センターで日々の活動のお役に立っているようで、どの自治体の皆様も本当に喜んでくださっています。ささやかながら日頃の感謝の気持ちを形にしてお届けし、福祉車両不足の解消に少しでも貢献できるように、取り組みを続けていきたいと思っております。



2 Feb. 本社・研究センター見学会を開催

本社・研究センターに株主の皆様をお招きし、見学会を開催しました。当社にとって初めての試みであり、至らない点も多々あったとは思いますが、研究開発の現場を知っていただく良い機会となりました。今後も継続して開催する予定です。当日は本社従業員一丸となって運営にあたった甲斐もあり、株主の皆様から励まし並びにお褒めの言葉を頂戴いたしました。この場を借りて御礼申し上げます。



前年同期比、売上高は13.1%増、経常利益は37.4%増

当連結会計年度におけるわが国経済は、消費税率引き上げ後の個人消費低迷によりマイナス成長になる時期があるなど、厳しい経済環境が続く中、企業収益は円安による輸出恩恵と原材料高の両面の要素により二極化しました。また、米国経済は雇用の回復や堅調な個人消費によって好調に推移し、中国経済は構造的な不安材料を抱えながらも7%台の成長率を維持していますが、東南アジア諸国をはじめとする新興国は政治的問題、財政問題に伴う通貨安等により成長率が鈍化し始めております。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、国内での需要が伸び悩む中、日華化学(株)から譲り受けたダイカスト用油剤、熱間鍛造潤滑剤の売上高が通期で貢献した他、インドネシアでは紙おむつ用ホットメルト接着剤の生産が順調に拡大し、売上高の増加につながりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は26,820百万円(前期比13.1%増)となり、経常利益は2,765百万円(同37.4%増)、当期純利益は1,639百万円(同35.3%増)となりました。

セグメントの業績の概況

日本

前年同期比、売上高は9.2%増、利益は15.9%増

●特殊潤滑油

当社主力の特殊潤滑油においては、消費税率引き上げ後の自動車生産の低迷はあったものの、日華化学(株)から譲り受けたダイカスト用油剤、熱間鍛造潤滑剤の売上高が大きく貢献しました。また、水溶性切削油剤では新規顧客の獲得と既存顧客への出荷が好調に推移したことにより売上高を伸ばしました。

●素材

流動パラフィン、リチウムイオン電池のセパレータ生産向け、化粧品原料用途が堅調に推移したものの、年度後半にかけて輸出が伸び悩みました。また、金属加工油の添加剤として使用される石油スルホネートの売上高は輸出が堅調に推移しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は21,007百万円(前期比9.2%増)となり、セグメント利益は1,396百万円(同15.9%増)となりました。

●合成潤滑油

高温用合成潤滑油は、当社顧客による中国、北米向けの好調な輸出に支えられ、売上高は堅調に推移しました。また、ハードディスク表面潤滑剤は、新製品への切り替えが順調に進むとともに、円安の寄与もあって売上高が増加しました。

●ホットメルト接着剤

ホットメルト接着剤は、主力である大人用紙おむつなどの衛生材用途、粘着用途、自動車用途等いずれの分野においても、顧客の在庫調整等により前年並みの売上高となりました。

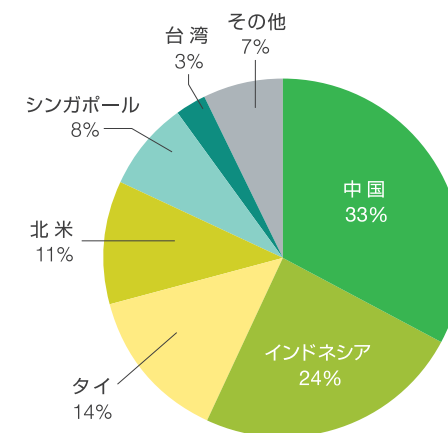
中国

前年同期比、売上高は16.0%増、利益は28.2%増

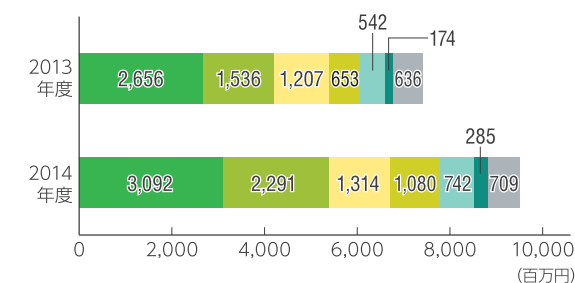
中国では、伸び率は低下したものの安定した自動車生産台数に支えられ、ダイカスト用油剤、難燃性作動液等が前年同期の売上高を上回り、全体として堅調に推移しました。

当セグメントの売上高は2,632百万円(前期比16.0%増)となり、セグメント利益は313百万円(同28.2%増)となりました。

2014年度累計 国別売上高比率



■ 中国 ■ インドネシア ■ タイ ■ 北米 ■ シンガポール ■ 台湾 ■ その他



東南アジア

前年同期比、売上高は34.2%増、利益は54.3%増

タイでは、自動車生産台数が前期比で減少し、特殊潤滑油の販売については厳しい状況が続きましたが、インドネシアにおける子供用紙おむつ向けホットメルト接着剤の生産が順調に拡大している他、ダイカスト用油剤、熱間鍛造潤滑剤の売上高が好調に推移した結果、東南アジア全体では好調を維持しました。

当セグメントの売上高は3,710百万円(前期比34.2%増)となり、セグメント利益は432百万円(同54.3%増)となりました。

北米

前年同期比、売上高は60.7%増、利益は36.5%増

北米では、好調な自動車生産を背景に、自動車関連顧客向けの販売が順調に推移するとともに、当期進出したメキシコにおけるダイカスト用油剤等の売上高が増加しました。また、合成潤滑油や日華化学(株)から譲り受けた熱間鍛造潤滑剤が売上高に大きく貢献しました。

当セグメントの売上高は818百万円(前期比60.7%増)となり、セグメント利益は46百万円(同36.5%増)となりました。

連結貸借対照表 (単位:百万円)

科目	当期	前期
	平成27年2月28日現在	平成26年2月28日現在
資産の部		
Point 1 流動資産	13,815	11,296
現金及び預金	2,502	1,724
受取手形及び売掛金	6,895	5,911
たな卸資産	4,088	3,278
その他	330	383
Point 2 固定資産	10,595	8,361
有形固定資産	6,679	5,077
無形固定資産	1,756	1,634
投資その他の資産	2,160	1,650
資産合計	24,411	19,657
負債の部		
Point 3 流動負債	8,888	6,858
支払手形及び買掛金	5,058	4,443
短期借入金	1,898	1,082
その他	1,932	1,333
Point 4 固定負債	2,127	1,612
長期借入金	1,374	1,156
その他	752	456
負債合計	11,015	8,469
純資産の部		
株主資本	11,032	9,731
資本金	2,091	2,091
資本剰余金	1,951	1,951
利益剰余金	6,991	5,691
自己株式	△1	△0
その他の包括利益累計額	943	423
少数株主持分	1,421	1,033
Point 5 純資産合計	13,396	11,187
負債・純資産合計	24,411	19,657

Point 6 連結損益計算書 (単位:百万円)

科目	当期	前期
	自平成26年3月1日 至平成27年2月28日	自平成25年3月1日 至平成26年2月28日
売上高	26,820	23,724
売上原価	18,704	16,576
売上総利益	8,116	7,148
販売費及び一般管理費	5,866	5,330
営業利益	2,250	1,818
営業外収益	550	261
営業外費用	35	67
経常利益	2,765	2,012
税金等調整前当期純利益	2,765	2,012
法人税、住民税及び事業税	706	377
法人税等調整額	143	268
少数株主損益調整前当期純利益	1,916	1,368
少数株主利益	277	156
当期純利益	1,639	1,212
1株当たり純利益	169.52円	132.48円

Point 7 連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科目	当期	前期
	自平成26年3月1日 至平成27年2月28日	自平成25年3月1日 至平成26年2月28日
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,263	1,286
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,178	△2,210
財務活動によるキャッシュ・フロー	646	1,245
現金及び現金同等物に係る換算差額	50	105
現金及び現金同等物の増減額	780	426
現金及び現金同等物の期首残高	1,441	1,015
現金及び現金同等物の期末残高	2,221	1,441

※記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

連結株主資本等変動計算書 自平成26年3月1日
至平成27年2月28日 (単位:百万円)

科目	株主資本				その他の包括利益累計額				少数株主持分	純資産合計	
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額			その他の包括利益 累計額合計
平成26年3月1日 残高	2,091	1,951	5,691	△0	9,731	65	358	—	423	1,033	11,187
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△338		△338						△338
当期純利益			1,639		1,639						1,639
自己株式の取得				△0	△0						△0
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)					—	2	492	26	520	388	908
連結会計年度中の変動額合計	—	—	1,300	△0	1,300	2	492	26	520	388	2,208
平成27年2月28日 残高	2,091	1,951	6,991	△1	11,032	67	850	26	943	1,421	13,396

※記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

財務ポイント

Point 1 流動資産
「受取手形及び売掛金」「たな卸資産」の増加は、売上高の増加によるものです。

Point 2 固定資産
「有形固定資産」の増加は、当社での第2研究棟建設、中国天津での新会社建設等によるものです。

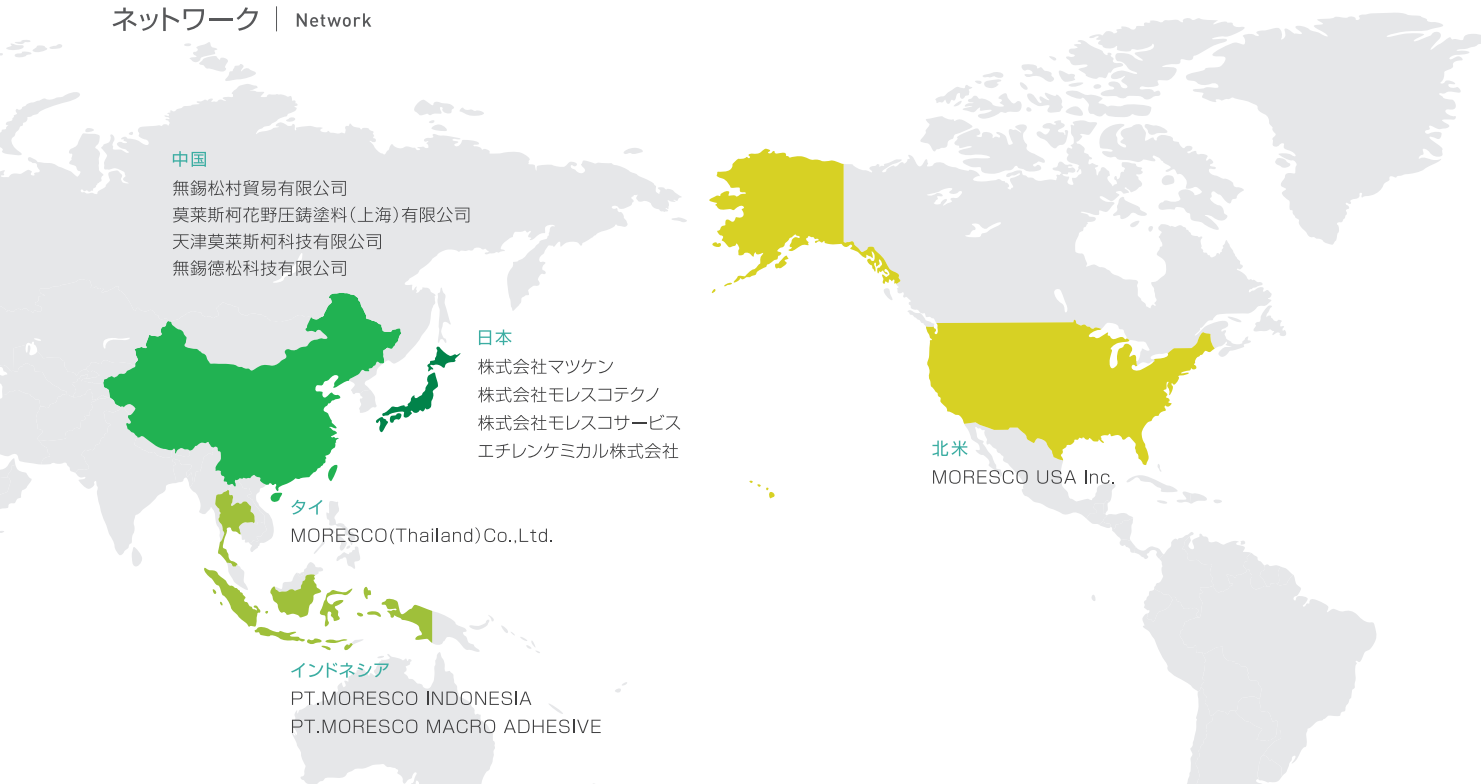
Point 3 流動負債
「支払手形及び買掛金」の増加は仕入れ高の増加によるものです。また「短期借入金」の増加は、運転資金の増加および一年以内返済予定長期借入金の増加によるものです。

Point 4 固定負債
「長期借入金」の増加は、返済の一方で設備資金の借入増加によるものです。

Point 5 純資産合計
「利益剰余金」が1,300百万円、「少数株主持分」が388百万円増加するとともに、「為替換算調整勘定」が492百万円増加し、純資産は2,208百万円増加しました。

Point 6 損益計算書
前期に、日華化学㈱から譲り受けたダイカスト用油剤および熱間鍛造潤滑剤の売上高が通期で貢献したこと、ハードディスク表面潤滑剤について、新製品への切り替えが順調に進んだこと、インドネシアでの紙おむつ用ホットメルト接着剤の生産が順調に拡大したこと等により、売上高は26,820百万円(前期比13.1%増)となりました。また、為替差益の計上により営業外収益が増加し、経常利益は2,765百万円(前期比37.4%増)、当期純利益は1,639百万円(前期比35.3%増)となりました。

Point 7 キャッシュ・フロー計算書
当期末における現金及び現金同等物の残高は、前期末に比べ780百万円増加し、2,221百万円となりました。営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益の増加等により、前期に比べ976百万円増加し、2,263百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得(Point 2 固定資産を参照ください)により、2,178百万円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは配当金の支払いがあった一方で、借入金が増加したことにより、646百万円の収入となりました。



国内

- 株式会社マツケン**
廃水処理装置、廃水処理剤の販売等
- 株式会社モレスコテクノ**
潤滑油管理・計量証明試験、関連機器販売
- 株式会社モレスコサービス**
MORESCOグループをサービス面からバックアップ
- エチレンケミカル株式会社**
冷熱媒体・自動車用ケミカル製品の製造・販売

北米

MORESCO USA Inc.
特殊潤滑油の米国拠点

中国

- 無錫松村貿易有限公司**
特殊潤滑油・ホットメルト接着剤および輸入原料・製品販売の中国拠点
- 莫萊斯柯花野圧鑄塗料(上海)有限公司**
ダイカスト用油剤、潤滑剤の製造、販売および輸出入の中国拠点

天津莫萊斯柯科技有限公司
ホットメルト接着剤等の製造・販売及び輸出入

無錫德松科技有限公司
特殊潤滑油・ホットメルト接着剤製造の中国拠点

東南アジア

- MORESCO(Thailand)Co.,Ltd.**
特殊潤滑油のタイ拠点
- PT.MORESCO INDONESIA**
特殊潤滑油のインドネシア拠点

PT.MORESCO MACRO ADHESIVE
ホットメルト接着剤のインドネシア拠点

会社概要

商号 株式会社MORESCO
設立 1958年10月27日
資本金 2,090,578,200円
従業員数 282名

本社および事業所

本社・研究センター 神戸市中央区港島南町5丁目5-3
電話 078-303-9010(代表)

支店 東京支店／大阪支店
営業所 名古屋営業所
工場 千葉工場／赤穂工場

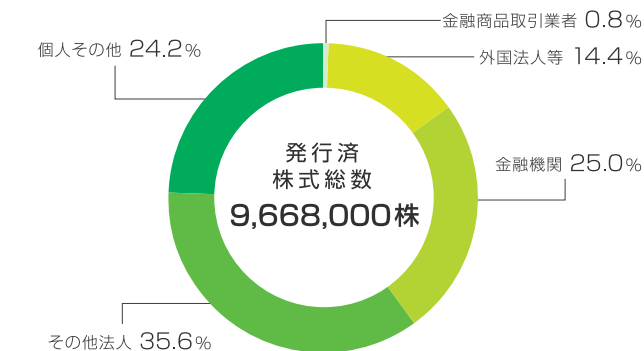
役員構成

代表取締役 社長執行役員 赤田 民生
取締役 専務執行役員 竹内 隆
取締役 常務執行役員 山地 一
取締役 常務執行役員 菊池 習作
取締役 常務執行役員 両角 元寿
取締役 相談役 中野 正徳
取締役 米田 徳夫
取締役 浅野 応孝
取締役 リ・ジュ・ジュディ・リン
常勤監査役 本田 優
監査役 富野 武
監査役 小沢 史比古
監査役 長谷川 克博

株式の状況

発行可能株式総数 20,000,000株
発行済株式総数 9,668,000株
株主数 3,495名

株式所有者別分布状況



大株主

株主名	持株数	株主比率
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,123,400	11.6%
松村石油株式会社	1,067,000	11.0%
コスモ石油ルブリカンツ株式会社	503,000	5.2%
BBH FOR MATTHEWS JAPAN FUND	400,300	4.1%
日本曹達株式会社	365,000	3.8%
MORESCO従業員持株会	331,120	3.4%
双日株式会社	327,000	3.4%
三菱商事株式会社	327,000	3.4%
株式会社みずほ銀行	250,000	2.6%
株式会社三菱東京UFJ銀行	250,000	2.6%

持株比率は自己株式(610株)を控除して計算しております。

- 事業年度
3月1日～翌年2月末日
- 期末配当金受領株主確定日
2月末日
- 中間配当金受領株主確定日(中間配当を行う場合)
8月31日
- 定時株主総会
毎年5月
- 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同連絡先
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
TEL:0120-094-777(通話料無料)
- 上場証券取引所
東京証券取引所

〈公告の方法〉

電子公告により行う

公告記載URL <http://www.moresco.co.jp/>

(ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に公告いたします。)

【ご注意】

- ◎株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。
株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- ◎特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取り扱いいたします。
- ◎未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。